

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300133
法人名	社会福祉法人 くりのみ会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 くりのみ土居
所在地	愛媛県四国中央市土居町津根3008-1
自己評価作成日	平成23年11月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で温かみのある家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケア(介護)を行なう。健康管理に十分注意して急変時や特変事は、すぐに協力医療機関と連携を図り、対応できる環境にある。また、施設内にあるリハビリ施設を利用して一人ひとりにあったリハビリを行い、心身の機能の低下を図る。
ユニット内でレクや季節にあった手芸・工作を行なうことで楽しみのある生活を送り、また、施設のユニット間の交流を図ることで、生活に張り合いを持たせるように取り組んでいます。
慰問や散歩、外出等で多くの方とふれあう機会を設ける。また、ゆったりとした時間を過ごせる環境を提供できるように取り組む。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型介護老人福祉施設の2階にあり、開設約1年の事業所である。管理者や職員は、理念に沿って利用者の日々の暮らしを支えている。利用者も事業所での生活に徐々に慣れてきており、自分のペースで過ごすことができている。地域との交流は大切と考えており、積極的に地域の情報を得て交流を図り、施設内で開催した納涼祭には近所の方の参加が得られている。医療面においても協力医療機関からの往診があり、敷地内にリハビリの施設があるため安心して生活することができる。緊急時には、併設施設の看護師との協力体制が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 認知症対応型共同生活介護事業所

(ユニット名) くりのみ土居

記入者(管理者)

氏名 白川雄一

評価完了日 平成23年 11月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自立を支援し、自分らしく尊厳を持って生きられるようにQOLの向上を図る」を理念に掲げる。</p> <p>(外部評価) 理念は開設時に管理者が作成している。職員は理念について把握して、利用者の日々の生活を支援している。開設9か月が過ぎたところであり、管理者と職員は理念についての具体的な話し合いはされていない。</p>	利用者の日々の暮らしを支えるためには、理念について理解を深め全職員で共有する必要がある。管理者と職員が理念について話し合う機会を設け、理念について検討するよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 開設して9ヶ月を向かえる。積極的に慰問を受け入れ、地域の祭りには太鼓台も立ち寄ってもらっている。夏祭りでは、施設全体で取り組み、ご家族の方や地域の方にご案内して、できる限り参加して頂いています。</p> <p>(外部評価) 地域との関わりを大切にし、地方祭に参加したり、職員が地域の老人会にボランティアに行くこともある。また、施設全体で行う夏祭りを近隣に案内し近所の方が参加してくれるなど、行事を通じて交流を行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場で認知症について話をしたり、理解を深めていただけるような場を設ける。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で問題点や指摘点などがあれば職員間で話し合う。また、それに対しての改善点がみられた場合も運営推進会議で報告するようにしている。	
			(外部評価) 利用者の家族や地域住民の代表者、地域包括支援センター職員等などの参加を得て開催している。利用者の状況や行事の報告などが行われ、意見や助言をもらっている。また、地域に関する情報も民生委員から得ることができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ふれあい相談員さんが来られ、情報交換を行っている。その都度、気になったことはその場で話し合っている。	
			(外部評価) 市の職員とは様々な場面で相談したり、助言をもらったりしており良好な関係が構築されている。また、地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加してもらい、助言をもらっている。月1回の介護相談員の訪問も受け入れ意見交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在まで身体拘束の必要に迫られたことはないが、施設設備の離床センサーを活用したり、アクティブタグシステムを利用して身体拘束を行わないように努めている。必要に迫られたときは、スタッフ間で直ぐに話しあう場を設ける。	
			(外部評価) マニュアルを作成し、勉強会を行い理解を深め身体拘束のないケアを実践している。事業所は複合施設の中にあり、併設施設の職員が見守りを協力している。利用者に対する声かけにも気を付け、言葉で拘束をしないよう気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開催し、高齢者虐待防止法などの講習を行うことで意識を深め、虐待の防止に努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などの場で学んでいるスタッフはいるが、それを他のスタッフと共有するまでにはできていない。今後、勉強会を開催し、職員間で知識を共有し活用できるように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をするにパンフレットや書類で詳しく説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望に関しては、来室時などに声掛けを行い口頭で伺えるように努めている。出た意見に関しては、職員間で話し合おう場を設け、積極的に改善できるように努めている。 (外部評価) 家族の訪問や電話で連絡した際に意見や要望を聞き取るように努めているが、要望や意見は少ない。出された要望や意見については、職員で話し合いを行い対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月ミーティングの際に管理者と職員間で話し合う場を設けている。また、お互いに普段から意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員が意見を言いやすい環境や関係づくりに努めている。意見が出された際は、その都度話し合っている。職員は施設内・外の研修会に参加し、利用者の日々のケアにつなげている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 賞与支給時、職員間の良く努力をしている所や実績などについて本人と話す機会を持つようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 不定期で同グループスタッフと合同の勉強会を行っている。また、それ以外にもなるべく研修の場を設けるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修などで知り合った方たちと定期的に連絡を取り合っている。しかし、同業者との交流を図るまでには至っていない。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前にお話を十分に伺い、なるべく入居者に関しての不安を取り除くようにしている。また、入居後も不安や要望を会話や行動の中から様子を伺い、注意しながらケアを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族が不安に思っている事や家族の希望などを必ず聞くようにしている。また、面会に来られた際などにも積極的に、ご家族に声をかけ、話を聞きだせるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明をしたり、介護保険の内容がわかりやすく説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることはなるべく自分でしていただきながら、プランターなどの得意な事などには「していただく」という意識よりも、職員の方が、「教えていただいている」という意識の中でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあれば連絡をとったり、来室していただけるようにし、イベント行事は参加して頂けるように電話連絡している。意見や気づきを職員と家族がお互いに言い合えるような関係作りが出来るように日々努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイサービスやショートステイを利用して、合いたい方がいれば、職員間で連絡を取り合い面会などの場を設けている。外で合いたい場合は、家族と相談をしてなるべく希望に添えるようにしている。 (外部評価) 家族と一緒に家に帰るなど、家族の協力を得ながら外出支援を行っている。併設施設を利用している知人が訪ねて来てくれることもあり、施設内での新たな馴染みの関係ができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に職員間で入居者同士の関係について気になることを話す機会を設け、申し送りを通じてスタッフ全員に直ぐに伝わるようにし、ケアにつながるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) その後もその方の状態を気にしながら、不定期ではあるが、こちらから声掛けを行う。また、いつでも相談に乗れるよう日頃から信頼関係の構築に努める。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 計画作成担当を始め、各職員が希望や意見を聴き、カンファレンスを始め、日常の申し送りの際などに報告し、スタッフ全員で把握している。 (外部評価) 入居時に利用者や家族と面談して意向を把握している。職員は日々利用者に関わる中で、利用者の思いなども理解できるようになり、新たに把握したことを申し送りノートに記録したり口頭で伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前・後に本人やご家族、在宅担当ケアマネ等から情報を収集し、各個別表に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、入居後も職員との会話等の中でわかったことは、追記し、職員間で伝達している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一人一人の1日の状態が把握できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族参加が難しいため、カンファレンス等で意見を家族が入室した時に話し合い、意見交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は管理者が作成しており、職員は関わっていない。月1回カンファレンスで話し合いを行っており、6か月に1回見直ししている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別記録に日々の状況を細かく記載するように心がけている。気になることは誰でも記載して、そのことについても検討する機会を設けるようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人所有の設備（リハビリ施設、交流センター、入浴装置、福祉車両等）をその時の利用者の状況や要望に合わせて、他部門と連携しながら柔軟に対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などとは、連携を図り、問題点や要望があれば気軽に協力・依頼ができるような関係作りを構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体の栗整形外科病院と連携を図りながら対応している。 本人や家族の希望も聞き、かかりつけが他にある 場合も連絡を取り、受診が出来るように支援してい る。	
			(外部評価) 本人や家族の希望するかかりつけ医への受診が、円滑 に行えるよう支援している。また、事業所の協力医療 機関をかかりつけ医としている利用者は、月2回往診 がある。緊急時には併設施設の看護師が対応するよう 体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 施設の看護師と毎日連絡を取り合い、看護師も入居者 の健康把握・管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関との連携は図れている。他医療機関に、 かかっている場合でも情報交換や相談をするようにし て、連携が図れるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 同グループの施設、協力医療機関で対応する。本人や 家族が望むのであれば、他医療機関などとの連携を取 りケアしていくように努めている。	
			(外部評価) 利用者の状況に応じて利用者や家族と話し合いを行 い、同法人の施設や協力医療機関で対応するようにし ているが、具体的な看取りの指針は作成されていな い。	重度化や終末期について事業所としては具体的にどの ような対応をするのか、できる事できない事などを明 確にし、利用者や家族と早期からの話し合いを行い、 説明する事が望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生に時に備えての勉強会を行う。今後も定期的開催を行う予定です。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 今年は2回防火防災避難訓練を行ったが、まだまだ不十分であらゆる災害を想定して訓練をしていき、災害時対応できるように努める。 (外部評価) 今年施設全体で2回避難訓練を行っている。夜間想定した訓練も行っているが、まだ地域との協力体制はできていないため、今後検討して行く予定である。	運営推進会議で地域の方に協力をお願いしたり、地域の防災組織に働きかけを行ったりして、地域との協力体制を確保する事を望みたい。また施設として地域の方に協力できる事などの話し合いも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、一人ひとりのプライバシーを損ねないようなケアが出来るように心がけ、スタッフ間で入居者に対する言動など普段から個別に話し合えるようにしている。 (外部評価) 各居室にトイレがあり、プライバシーが確保されやすい。申し送り時には個人情報を利用者に聞こえないよう注意している。また、居室の戸は開放したままにせず、閉めるようにしている。職員の声かけは自然で、利用者の人格を尊重する対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から本人の希望や思いを聞き出せるような関係を築けるように心がけており、一人ひとりと話を伺えるよう努めている。また、本人が理解し、納得出来るように何事も良く説明をするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の毎日の健康状態をよく観察し、把握することで、その人のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めている。希望があれば、入浴や散歩など柔軟に対応するようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣をする際は、自分で服を選べるように声掛けやアドバイスを職員は行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節にあった食事が提供できるようにしている。その都度、味や固さ、量なども感想として聞けるようにしている。調理などはできないが、食事の片付けや配膳はお手伝いして下さる。 (外部評価) 献立は栄養士が立てており、栄養のバランスが考慮されている。調理は事業所内で職員が行っており、配膳や後片付け等できる事は利用者と職員と一緒にしている。食事は利用者の楽しみの1つとなっている。職員も利用者と同じテーブルで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が見守り毎食後に食事量チェックしている。水分は、食事の際、入浴後、レクやリハ後に身体を動かす前後で水分補給促を実施している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でケアが難しい方に対しては職員が食後、就寝前にケアをするようにしている。また、歯科往診もありDrと連携し口腔ケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 定期的にトイレ誘導を行っているが、排泄チェック表を使用して、その方の状態に合わせてその都度のトイレ誘導も行っている。職員間でカンファレンスを行い、排泄面での自立に向けて話し合い、布パンツへ移行するための話し合いも行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し支援している。各居室にトイレがあるため、排泄の状態を確認することができ利用者の健康管理にも役立っている。夜間は3時間毎に訪室したり、離床センサーを活用するなどし、利用者の自然な排泄介助に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘の場合は、なるべく自力排便出来るように運動を促したり、水分補給を促すなどのケアを行っている。しかし、どうしても時は、NrやDrと相談し便秘薬を服用するなどの対応を行っているが、</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 個別入浴でゆっくりと入浴をしている。入浴をしたことを忘れる入居者が多く、他者が入浴をしていることがきになる。その為、入浴日は決めていますが、本人の希望があればその都度入浴を行っている。</p> <p>(外部評価) 基本的には週3回としているが、希望によりいつでも入浴できるよう準備されている。夜間も職員が2人いる時間帯であれば、入浴可能となっている。利用者の状態を考慮しながら、必要に応じて併設施設内の特浴を利用することもできる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人ひとり個々人の睡眠ペースを尊重するようにしている。眠れないと居室より出て来られる方や不安がある方には職員がしばらく側についてお話をしたり安心していただけるような対応を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服用している薬と効果・副作用を掻いた一覧表を置いてあり、現在、服用中の薬や変更になった薬などを直ぐに情報が共有できるようにしている。新しく処方された薬に関しては、特に服用後の状態観察を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレク・手芸・工作などの参加を呼びかけ、特に大正琴や詩吟、音楽療法など自由に参加を呼びかけるようにしている。また、これまでの趣味や生活ペースを崩さず続けていけるよう支援する。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば家族の相談の元、体調の許す限り自由に出かけていただいている。なるべく、家族の方に協力していただく様になっているが、職員が同行したり、外出先の方に協力していただくこともある。 (外部評価) 施設全体の敷地が広く、自由に散歩できるようになっている。利用者の希望で個別に買い物に出かけたり、家族と一緒に外出したりしている。敷地内のリハビリの施設に出かけたり、週2回のパンの訪問販売も楽しみにしている。ホームの行事として、花見、笹飾りの見学、紅葉狩り等計画して外出の機会を作り支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、自由に所持していただいているが、認知症が進んでいる方や置き忘れ、物盗られ妄想などがある方に関しては少額を所持していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホーム内の電話を自由に使ってもらい電話をしていただく、手紙を投函する場合は、家族に確認してもらい投函している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームの内部や居室は、すべて畳み敷きで家庭環境に近い雰囲気になっている。大きな窓を使用して、自然の光を取り入れている。掲示板では、利用者と一緒に作った季節にあった飾り付けを行っている。	
			(外部評価) 事業所全体が畳風の床で、利用者が落ち着いて過ごせるようソファや家具の配置も工夫しており、ほっとできる空間づくりがされている。廊下の端にイスが設置され、外を眺めることができる。季節を感じるような飾りつけも施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ラウンジにテーブルと椅子を設置して、気のあった方と座って外を眺めながらお話ができる場を作っている。また、リビングは食堂とくつろぎスペースを設けて個別で話を出来る場を設けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には、本人の使い慣れた物や思い出の品、家族の写真などを配置して、本人にとってくらしやすい環境になるように工夫している。	
			(外部評価) 居室は広く全室畳が敷かれている。利用者はそれぞれ家庭より馴染みの物を持ち込んだり、壁に写真等を飾るなど、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの出来ること出来ないことを職員が把握し、その能力に応じて作業を職員と一緒にしている。職員もその方にとって出来るかもしれない事を実際にチャレンジしたり検討する場を設け、意見を出し合うようにしている。	